



2009年度 第2四半期決算の概要

2009年10月30日



2009年2Q決算(連結・累計) ハイライト

前年度比 減収

- 売上高1,141百万円（前年比 47.2%減）
 - 光部品： 海外向け製品※で前年の成長との落差
 - 光測定器：生産向け設備投資が減少

※日本国内向け出荷の中で、お客様製品に組み込まれて海外に出荷されるものを含んでいます。

最終赤字

- 人員配置適正化・経費節減・原価低減も及ばず
 - 営業損益 ▲161百万円
 - 経常損益 ▲204百万円
 - 当期純損益 ▲204百万円

次世代新製品開発及び新事業分野の開拓

- ソリューション 新製品取扱を開始
- LCOS設備 導入を完了 新製品開発を加速

2009年2Q実績（連結・累計）

海外向け光部品 前年度比で大幅減

（単位 百万円）

	08年 2Q累計	09年2Q 当初予想	09年 2Q累計	前年度比	当初予想比
売上高	2,160	1,241	1,141	▲1,019 ▲47.2%	▲100 ▲8.0%
営業利益	225	▲102	▲161	▲387 ▲171.4%	▲59 ▲58.1%
経常利益	211	▲132	▲204	▲416 ▲196.7%	▲72 ▲55.0%
純利益	208	▲135	▲204	▲413 ▲198.3%	▲69 ▲51.6%

概況

売上 大幅減

光部品 前年急成長で落差

測定器 生産設備向け減少

営業益 赤字

値引き要求強い

経費・労務費圧縮で対応

最終赤字

2009年2Q 総資産および純資産の状況(連結)

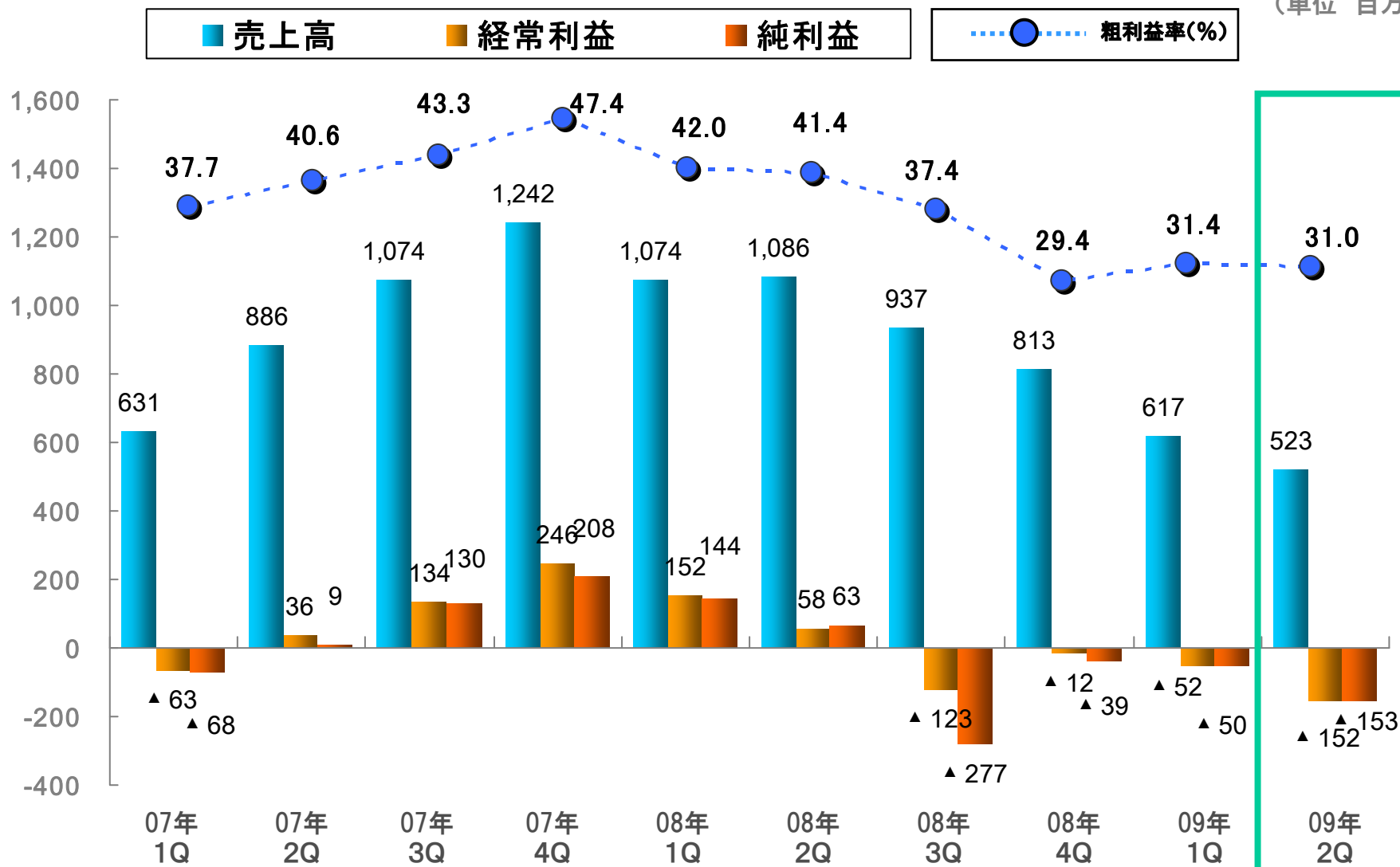
(単位 百万円)

	08年 期末	09年 2Q末	前年度末比	
総 資 産	7,612	7,340	▲272	▲3.6%
純 資 産	6,774	6,568	▲206	▲3.0%
自己資本比率(%)	89.0%	89.5%	-	+0.5 (%)
一株当たり純資産(円)	566.36円	549.17円	▲17.19円	▲3.0%

業績の推移(四半期・連結)

売上高の低下傾向続く

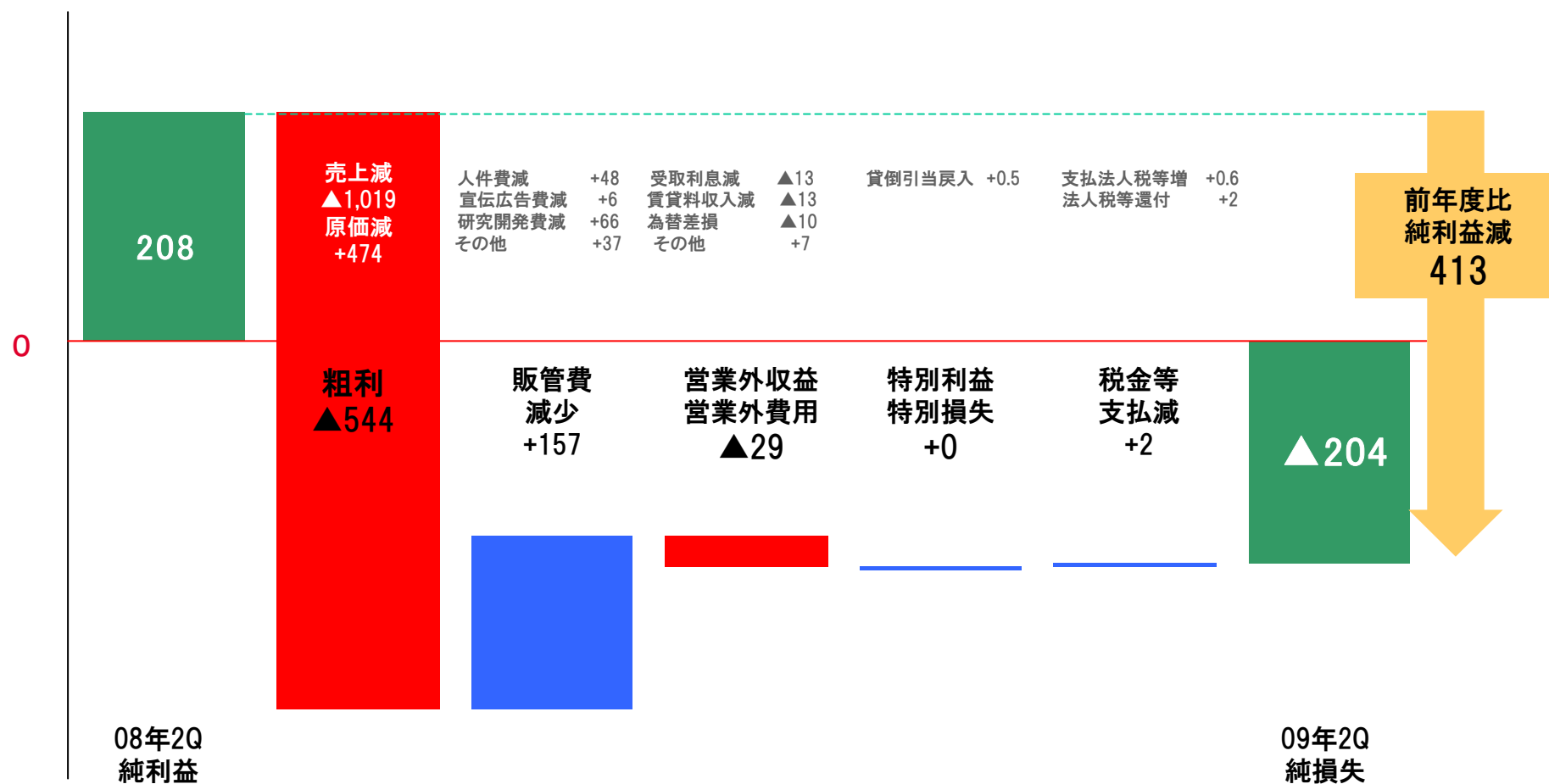
(単位 百万円)



当期純利益減少の要因分析（連結・累計）

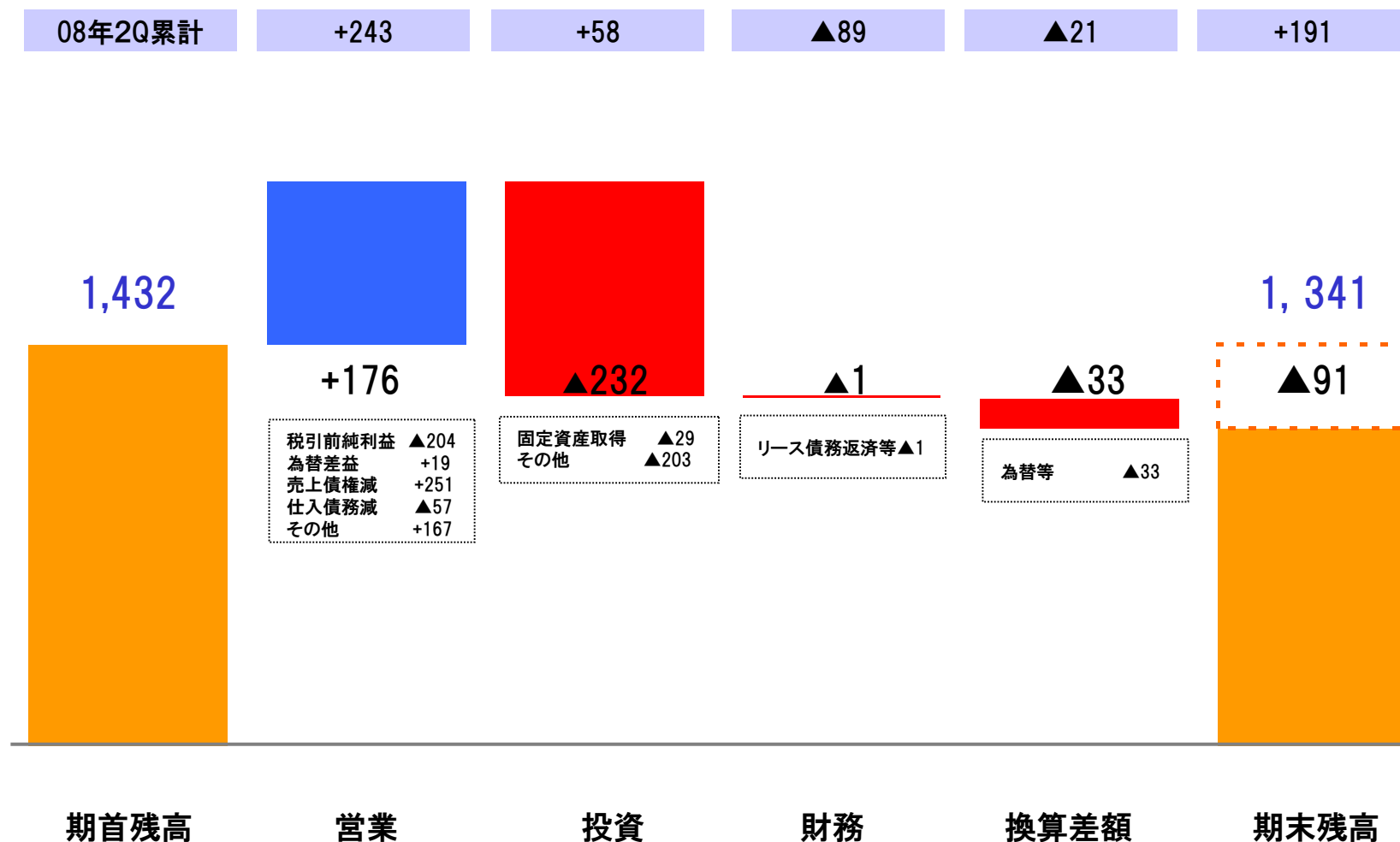
売上減による粗利減少

（単位 百万円）



キャッシュ・フロー（連結・累計）

（単位 百万円）



事業別売上高（連結・累計）

光部品と生産設備向け光測定器 減速

（単位 百万円）

	08年 2Q	構成比	09年 2Q	構成比	前年度比	
光部品	1,596	73.9%	714	62.6%	▲882	▲55.3%
光測定器	445	20.6%	320	28.1%	▲125	▲28.1%
その他	118	5.5%	106	9.4%	▲11	▲10.0%
うち ソフトウェア	116	5.4%	106	9.3%	▲10	▲8.8%
合計	2,160	—	1,141	—	▲1,019	▲47.2%

概 況

光部品 半減

海外向け低迷続く

光測定器 減少

生産設備投資 弱い

研究用途 健闘

OCT 横ばい

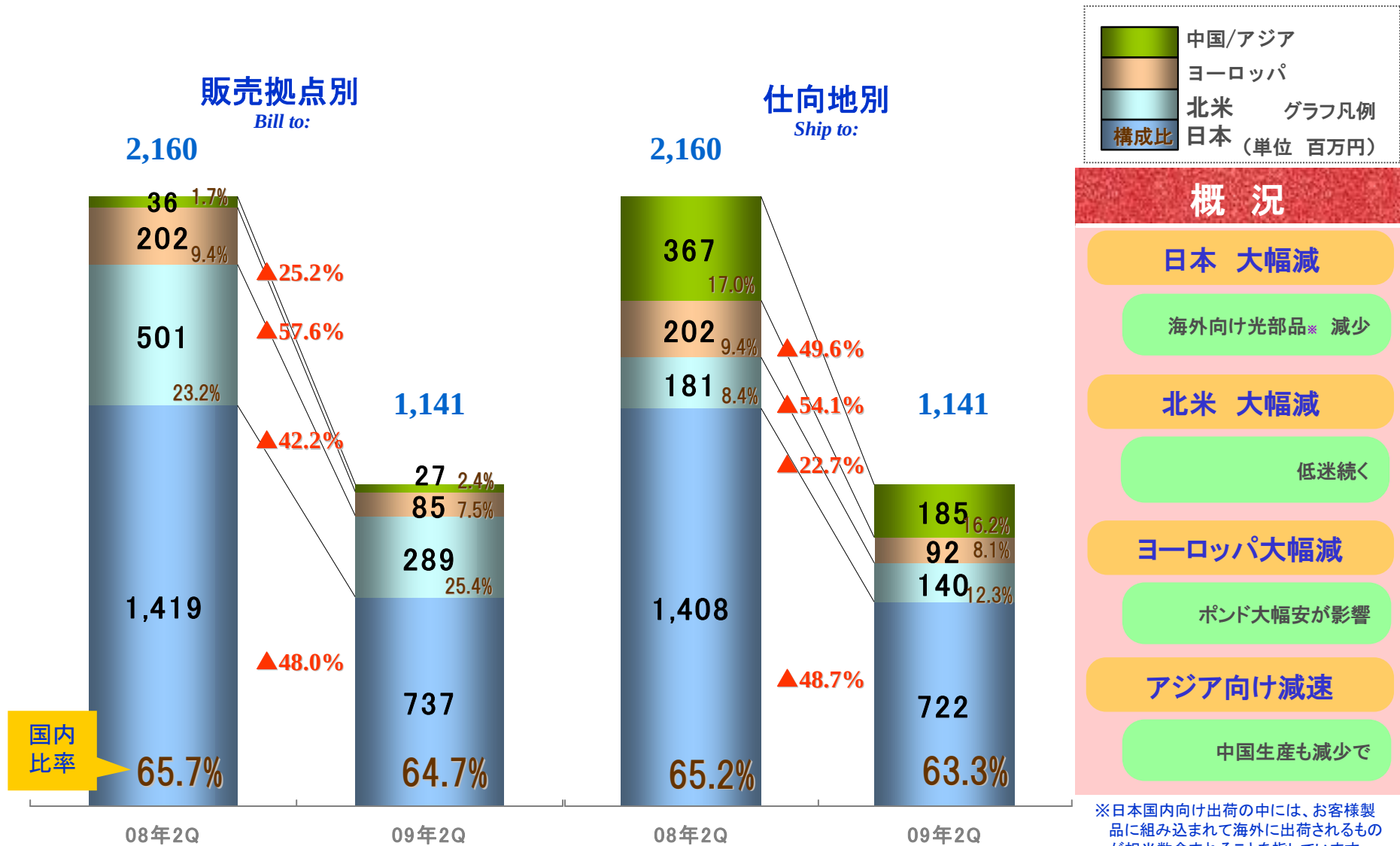
ソフトウェア減速

ASP 経費削減の逆風

新規商材注入で強化

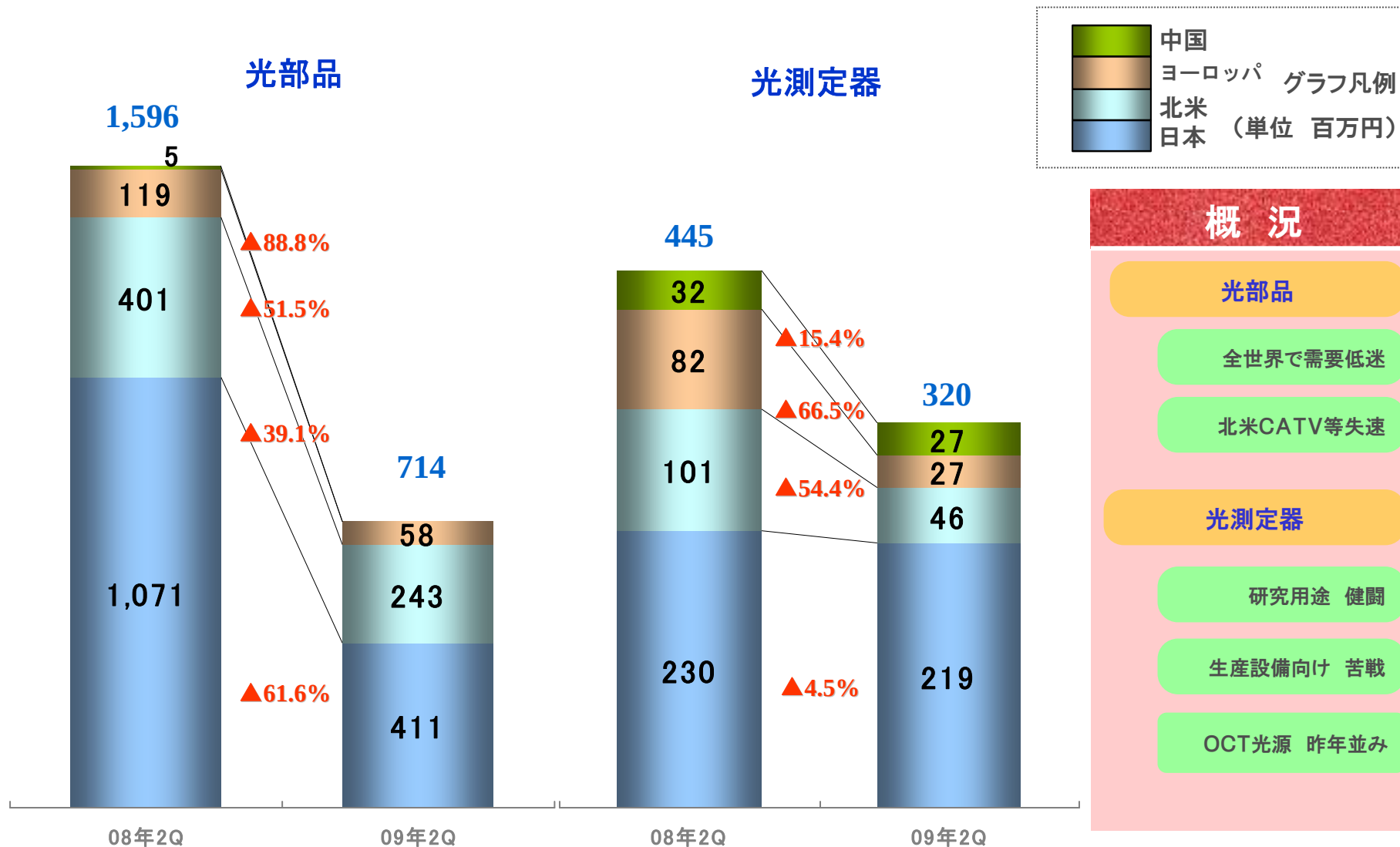
地域別売上高（連結・累計）

前年度比 ほぼ全地域で半減



拠点別売上高(拠点/事業別・連結・累計)

設備投資回復に至らず



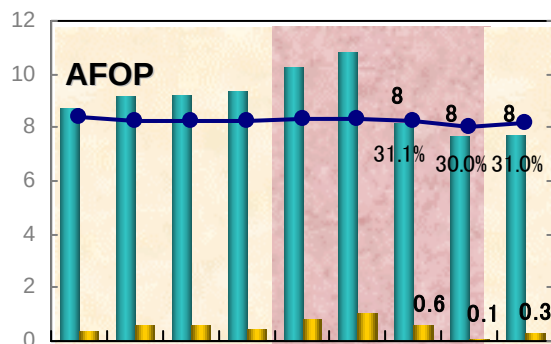
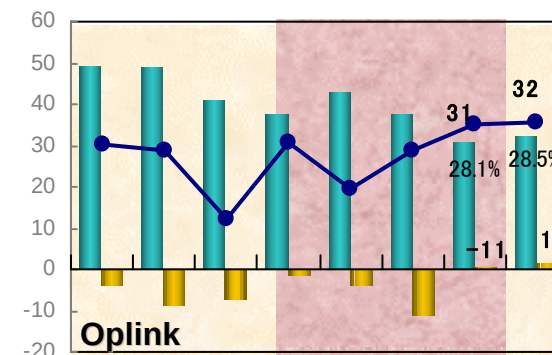
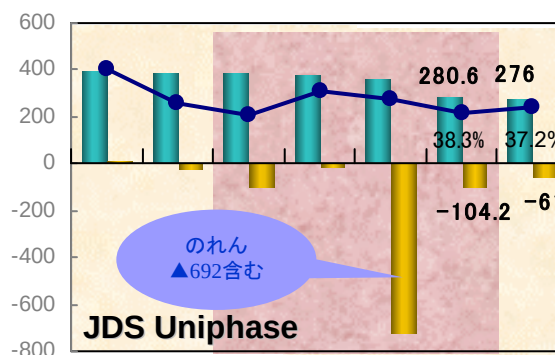
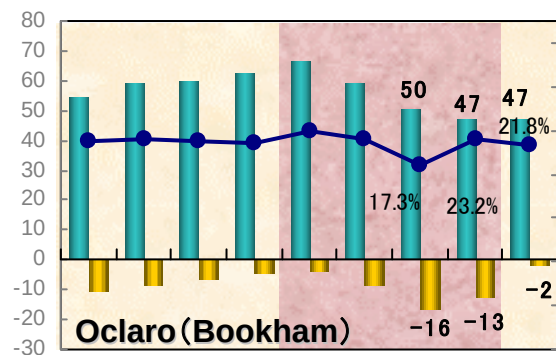
2009年通期予想（連結）

通期予想 修正なし

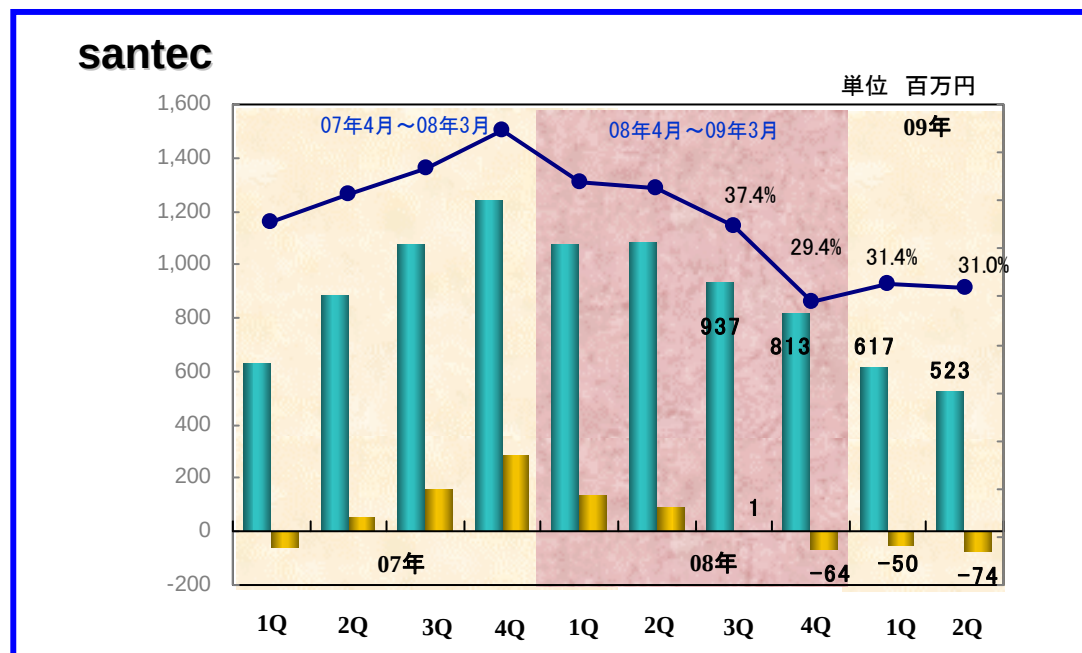
（単位 百万円）

	08年 通期	09年 2Q累計	09年 通期予想	08年度比（通期）	
売 上 高	3,911	1,141	2,940	▲971	▲24.8%
営業利益	163	▲161	82	▲81	▲49.7%
経常利益	75	▲204	22	▲53	▲70.7%
純 利 益	▲108	▲204	17	+125	+115.7%

ベンチマーク 四半期業績の推移比較



凡例		単位 百万ドル
■	売上高(Net Revenue)	
■	営業利益(Operating income)	
●	粗利率 % (Gross Profit / Net Revenue)	



※各社開示資料から弊社作成。
 ※各社とも決算期が異なりますが、便宜上当社グループの決算期にそろえて色分けしています。



市場動向と 当社の事業戦略



世界の光通信市場の状況

概況

- 先行き警戒による在庫調整は一段落
 - 必要に応じて都度発注の傾向続く
- 底は打ったが、回復にはまだ時間が必要か

エリア別の状況

- 北米＝大手キャリア以外、投資見合わせで大幅下落
- 日本＝NGN 2009年度 政令指定都市クラスに敷設完了
- 欧州＝慎重姿勢を継続
- 中国＝市場は隆盛しているが、国内企業有利の事情あり

将来の見通し

- 業界全体で様子見状態が続く
 - 実需ベースでの緩やかな回復となるか
 - 価格下落傾向も続き、厳しい環境続く見通し

光通信市場のゾーン別状況

Long Haul

長距離通信

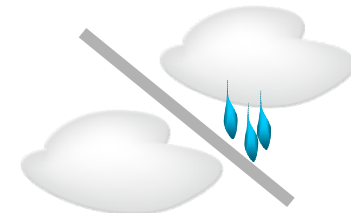
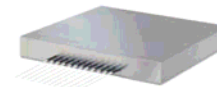
- 海底ケーブル向け設備投資 大型は一段落
- アジア地域での小規模案件は引き続きある



Metro

中距離・都市間通信

- 北米大手キャリアは淡々と継続
- 北米CATV等は、軒並み設備投資停滞
- 日本のNGN投資 2009年度に主要都市を網羅
 - 今後の急加速はないとみられる



Access

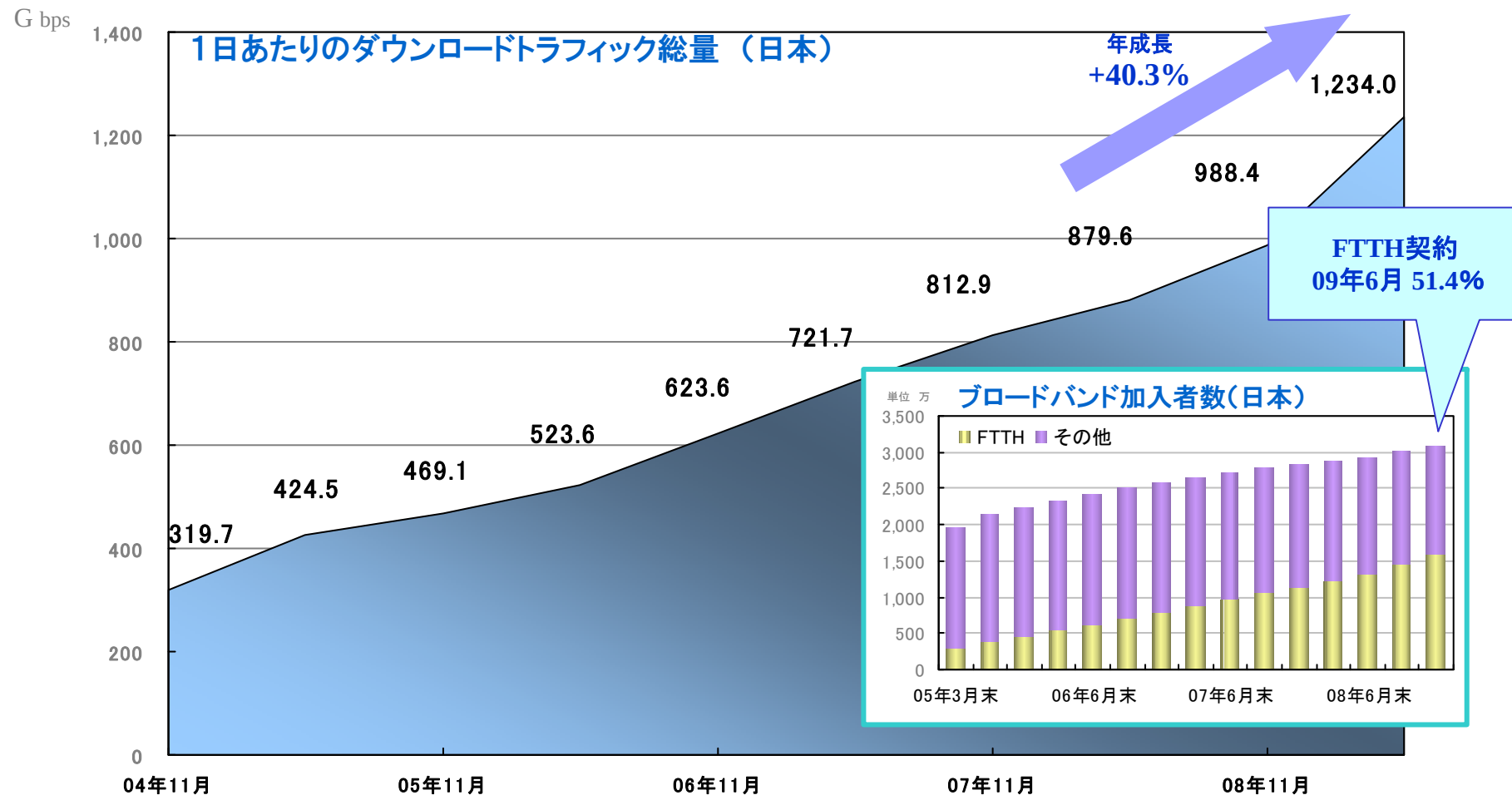
局舎＝加入者間通信

- 成長鈍化は見られるが、一定水準の期待
 - ブロードバンド 3,093万契約 うちFTTH 1,589万
 - 固定契約 5,800万 FTTHはまだ伸びに期待できる

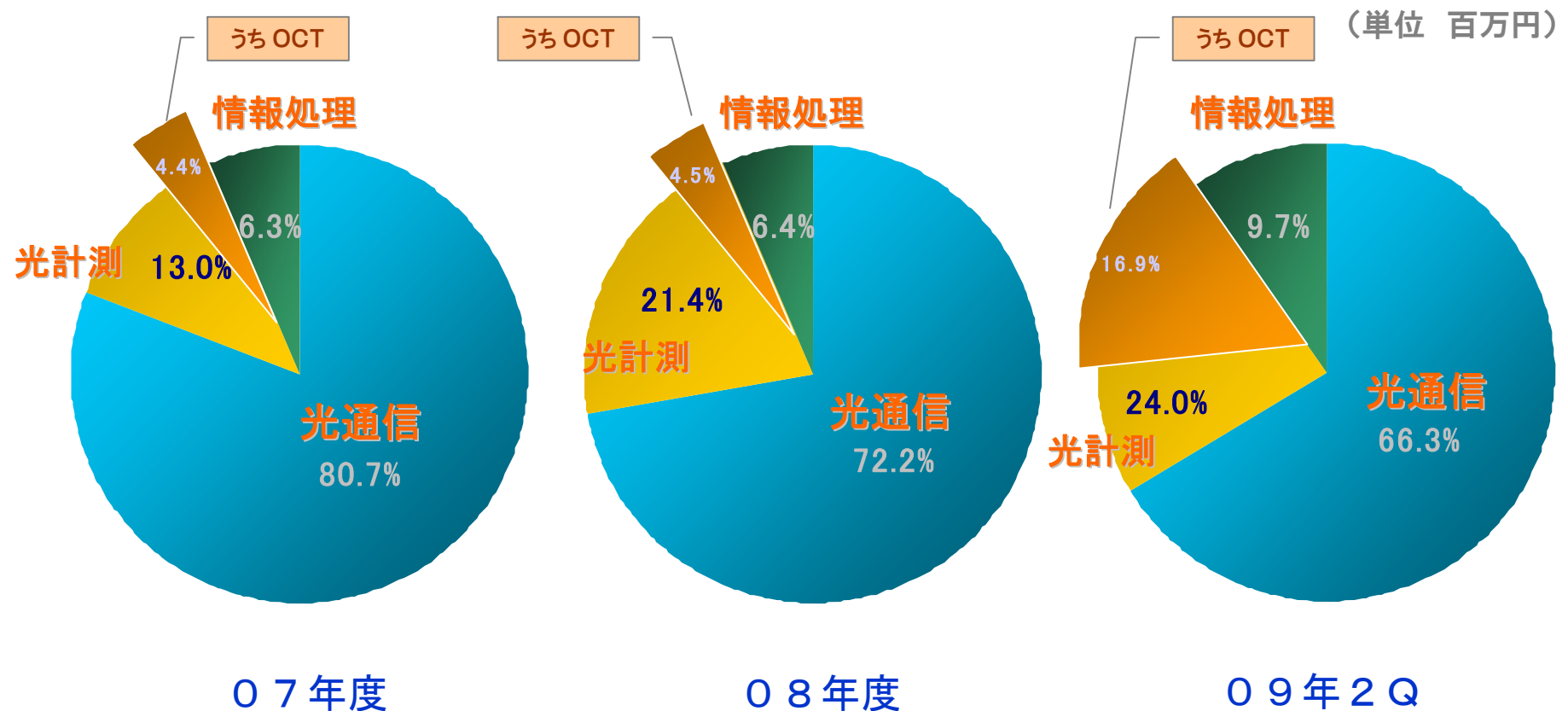


光通信市場 通信量増加傾向継続

実需は確かに存在する



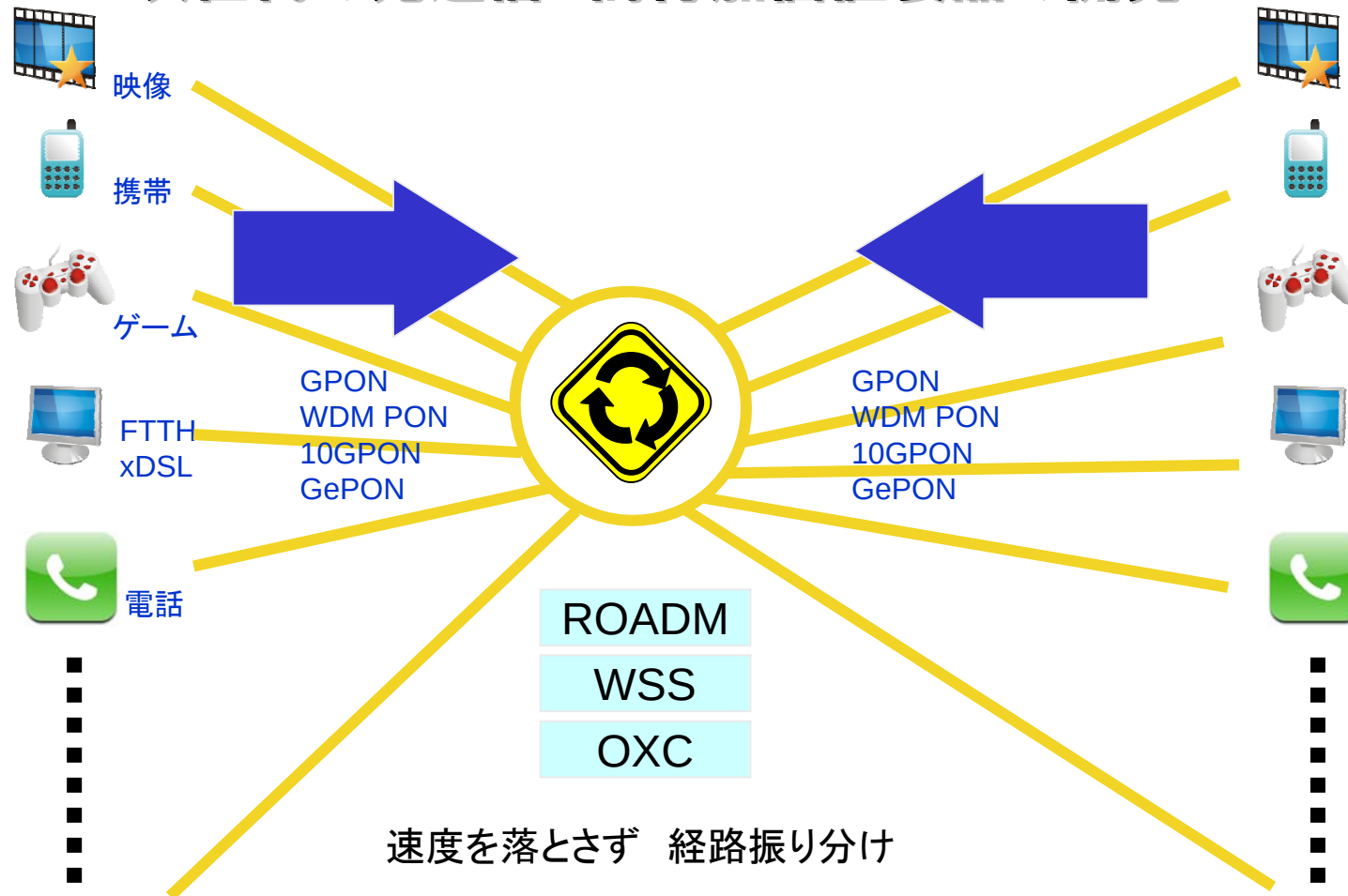
光技術を軸として活躍の場を広げる



当社の売上における応用分野の割合変化

新時代技術を担う新製品の創出

次世代の光通信 高付加価値製品の開発



PON Passive Optical Network。1本の光ファイバを分岐させて複数の加入者宅に引き込む技術。その方式などにより複数の種類がある。

ROADM Reconfigurable Optical Add/Drop Multiplexer。リング状につながった光ファイバで、任意の波長の光を流し、取り出せるようにする技術。超高速・大容量通信での活躍が見込まれる。

WSS Wavelength Selective Switch、波長選択スイッチ。ROADMを構成する技術の一つで、波長による経路切替を実現する。

OXC Optical Cross Connect。光信号を電気信号に変換せずに、光のまま経路を定めて変更する、WDM(波長分割多重)伝送路向けの中継装置。

光計測応用 新用途開拓進める

OCT応用はこれから

医療診断



工業用



歯科



OCT Optical Coherence Tomography

光の性質を利用して、物体の断層画像を取得するもの。近赤外線を利用するため、非破壊・非侵襲であることや、X線よりも詳細な情報を取得できるのが特長。



PCネットワークを中心とした製品の強化

**セキュリティ
L2スイッチ**



高性能
L2スイッチ + 高度なセキュリティ
機能異常検知専用ASIC + ネットワーク監視
VNM標準搭載



ワンクリックでPCサポート
リモートサポートツール **RSup** RemoteCall 5

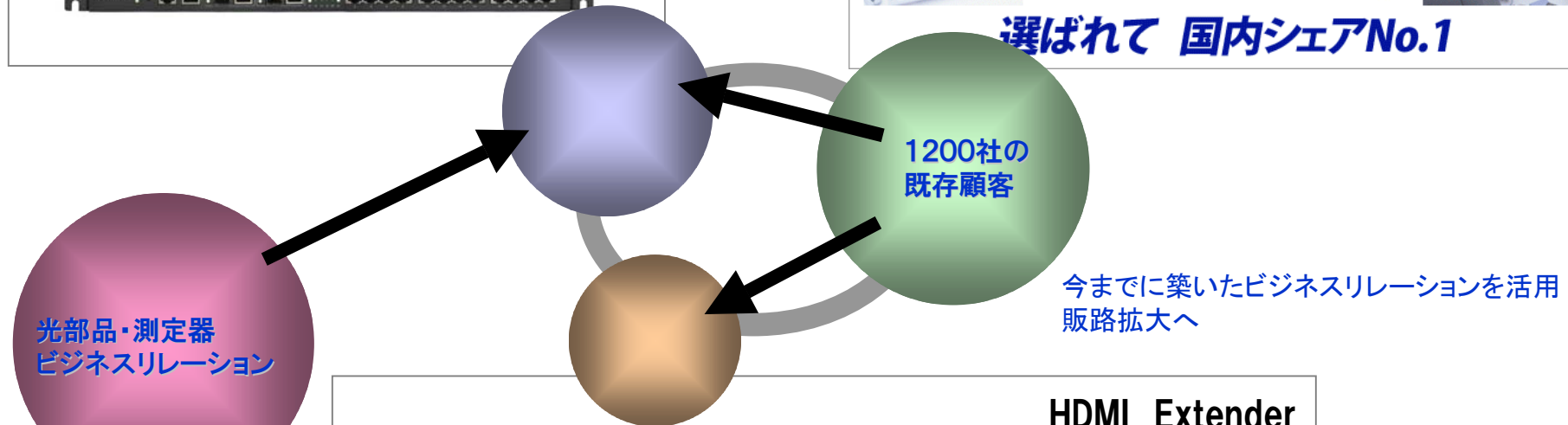


大手PCメーカーのカスタマーサポートでご採用

活躍中 NEC様 パナソニック様
東芝様 富士通様 など



選ばれて 国内シェアNo.1



HDMI Extender

DVDプレーヤ、コンピュータなど映像送出装置

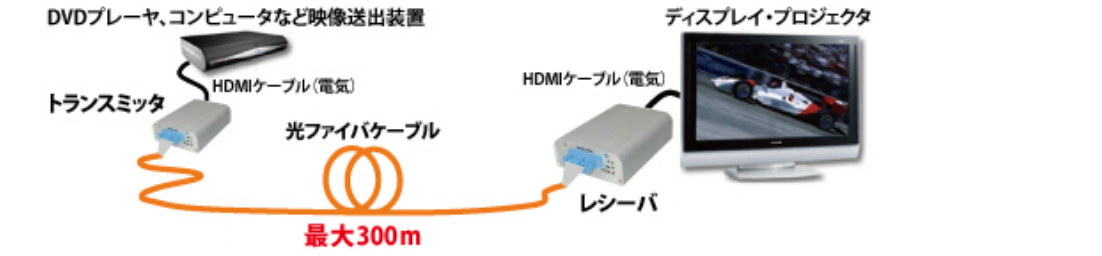
ディスプレイ・プロジェクタ

トランスミッタ HDMIケーブル(電気)

レシーバ HDMIケーブル(電気)

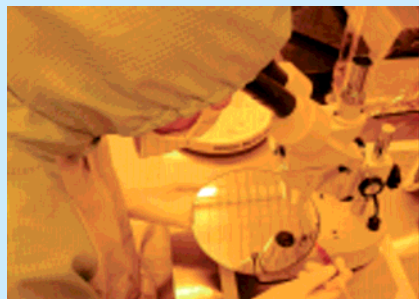
光ファイバケーブル

最大300m



最近の主なTopic

LCOS技術を導入



当社はこのたび、LCOS技術を導入いたしました。

LCOS技術は特殊な液晶技術であり、当社の光部品には勿論のこと、様々な製品への応用が期待されています。

今後、この技術を応用した各種製品を送り出していく予定です。

廉価版光波長フィルタ 注目あつめる



従来はモーター駆動であった光波長フィルタ装置を、手動式にすることにより、大幅なコストダウンを実現した、OTF-350を発表いたしました。

コンパクトながらも性能のよさから反響も大きく、数多くのお問い合わせを頂戴しております。

偏光消光比モニタPEM-330を販売開始



1台で光通信に使用される波長範囲のすべてを網羅できる偏光消光比モニタ、PEM-330を販売開始しました。

必要な測定波長に合わせて設備を準備することがなくなるため、設備導入コストの削減に貢献できます。

光つづけて 30年



おかげさまで8月25日をもって、創立30周年を迎えることができました。

1984年に光ファイバ自動検査システムを世界で始めて製品化してから、光技術とともに歩んできました。

これからも光技術で社会に貢献してまいります。



2009年度 全社基本方針と経営目標

2009年度 全社基本方針と経営目標

■基本方針

徹底した経営効率向上と新事業の創設

■経営目標

1. 新製品、新規事業、新技術の立上げ
2. BU制導入による事業スピード、経営効率向上
3. 徹底した原価低減推進と粗利益の確保
4. 経費、労務費の徹底削減と損益管理強化

新製品、新規事業、新技術の立上げ

厳しい環境を勝ち残り、次なる発展へ

新製品



- ラボ製品の充実
- ソリューション事業
- 新商材導入

新規事業



- 次世代光部品の創造
- OCT活躍の場を拡大

新技術

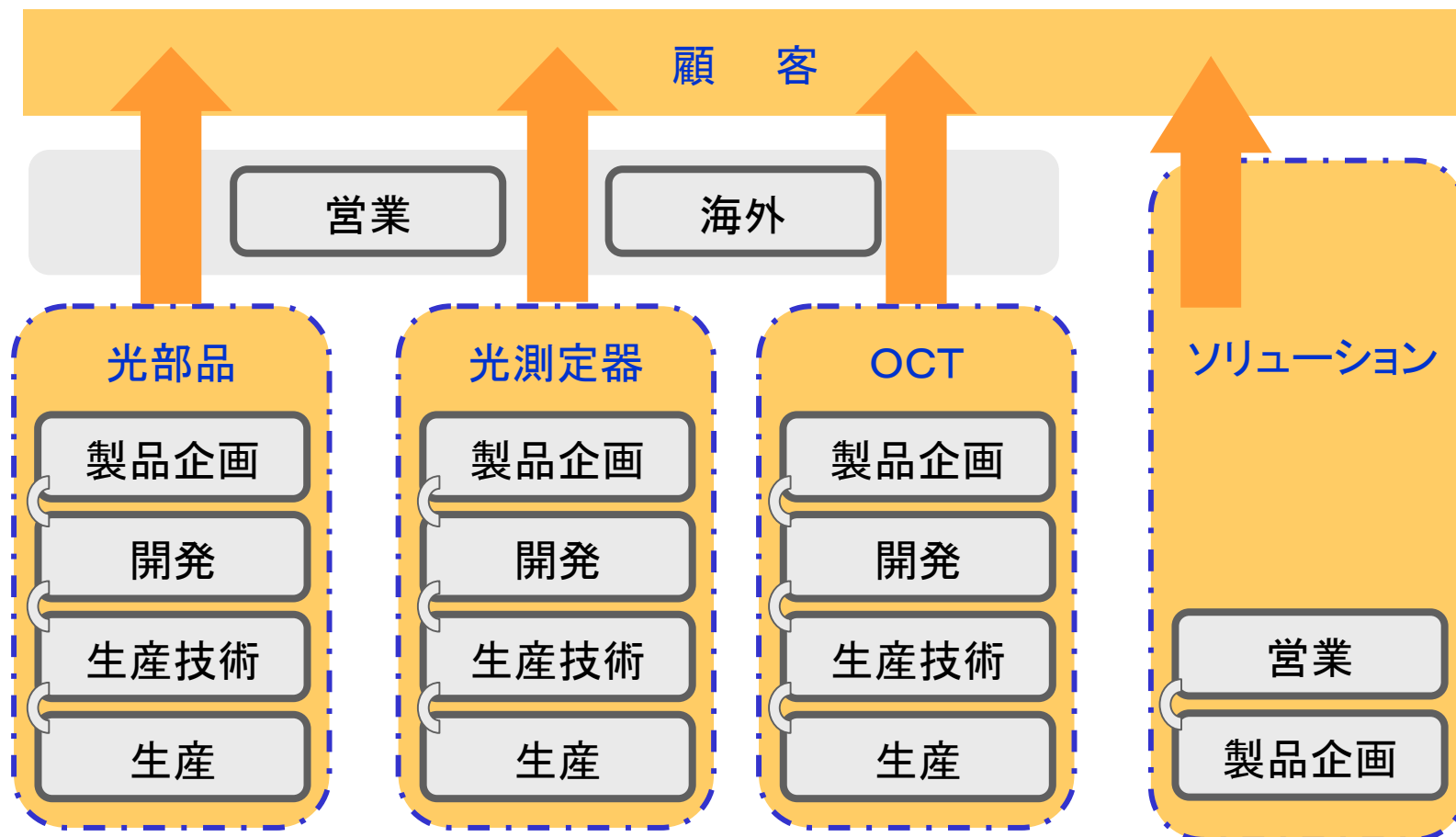


- LCOS 技術を獲得
- 光部品へ幅広く応用
- 部品以外にも適用

重点課題

ビジネスユニット制の導入

製品企画から生産まで一体の組織で顧客サポートを充実



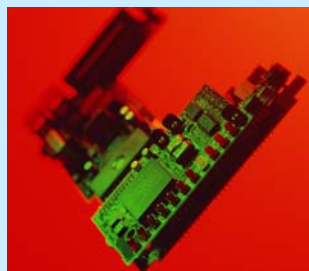
徹底した原価低減推進と粗利益の確保

利益確保



- 顧客密着で情報確保
 - 提案型営業で高利益
- 研究用途受注 強化
 - 研究機関への営業強化

既存製品改良



- 設計変更で効率向上
- 徹底した原価管理

調達見直し



- マルチベンダー化促進
- 原価分析と改善実行
- 調達先吟味

経費、労務費の徹底削減と損益管理強化

人員配置の適正化



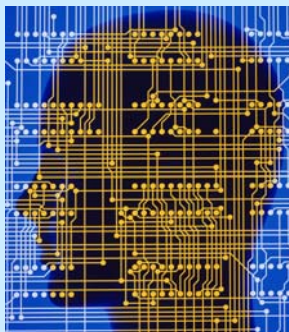
- 作業効率と実働率管理
- 多能工化促進
 - 生産現場を知悉した技術者
 - 現場から生まれる改良
 - 意思疎通の円滑化

効果的な研究開発



- 必要な投資は実施
- 研究費を外部から獲得
 - コラボレーション
 - 受託研究

スキル向上で内製化



- 外部技術の獲得
- 意欲的な内製化実施
 - 外注コストの削減
 - 提案力も大幅向上



The Photonics Pioneer of Networking

—— ネットワーク時代の光技術先駆者になる ——

本資料における当社の今後の計画、見通し、戦略等の将来予想に関する記述は、当社が現時点において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等の結果はこれらの見通しと異なる可能性がありますことをご了承ください。

本資料に関するお問合せ先

santec株式会社
IRグループ長 水島 大介
電話 0568-79-3535(代表)
URL: <http://www.santec-net.co.jp/>

〒485-0802
愛知県小牧市大草年上坂5823
フォトニクスバレー 大草キャンパス